

救急の現況

令和5年

岐阜市消防本部

当消防本部は、平成 30 年 4 月 1 日から 4 市 1 町において消防広域化の運用を開始しました。

この現況の平成 30 年のデータについては、広域化前の各消防本部の数値を含みます。また、平成 29 年以前のデータについては、広域化前の岐阜市消防本部の数値となります。

～平成 29 年度までの管轄地域～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市

山県市消防本部 山県市

本巣消防事務組合消防本部 本巣市・北方町

～平成 30 年度から～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町

～令和 3 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用開始

～令和 5 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用を岐阜県と並行運用開始

救急の概況（令和5年）

□救急出場件数 28,855 件、搬送人員 26,777 人

令和5年中の救急出場件数は28,855件、搬送人員は26,777人であった。

1日平均の出場件数は、約79件で18分に1件の割合で救急車が出場し、当消防本部管内の住民20人に1人が救急車を利用したことになる。

事故種別ごとの救急出場件数は、急病18,513件、一般負傷4,862件、交通事故2,124件の順となっており、特に急病は全出場件数の64.2%を占めている。

□心肺停止傷病者への救命処置について

救急隊員が救命処置をした心肺停止傷病者592人のうち、脈拍と呼吸が回復し1ヵ月生存した傷病者は28人、そのうち社会復帰した傷病者は14人となっている。

主な救命処置として、除細動を56人に実施し6人が社会復帰した。気管内チューブによる気道確保（ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管含む）は、11人に実施した。

また、薬剤投与（アドレナリン投与）は84人に実施した。

□救急救命士の養成について

救急救命士は、新たに5人を養成し、採用時救急救命士資格保持者2人と合わせて延べ159人となった。

また、気管内チューブによる気道確保可能な救急救命士は6人養成し延べ100人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管可能な救急救命士は8人養成し延べ53人、薬剤投与が可能な救急救命士については9人養成し延べ152人となった。

血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液（以下「新処置」という）が可能な救急救命士を10人養成し延べ117人となっている。

□救急隊員の教育・訓練の実施について

救急救命士を含む救急隊員の知識・技術の資質向上を図るために、第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会、第26回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会等の各種学会に参加した。

また、消防本部としては、テロ災害と多数傷病者対応の合同訓練を実施した。

さらに、メディカルコントロール体制の充実を図るため、4箇所の医療機関に救急隊を派遣しワークステーション方式による病院研修及び2箇所の医療機関では病院実習を実施している。

□応急手当の普及啓発活動について

救急車が現場に到着するまでの間に、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られることから住民、各種事業所及び各種団体を対象に広く救命講習を開催している。

また、応急手当普及員講習Ⅰを開催し、応急手当普及員を27人認定し、延べ141人となり、応急手当普及員により49回の救命講習が実施された。

□救急業務の推進について

救急活動の効率的な遂行を図るため、学識経験者、公募による住民代表者、岐阜市医師会及び医療機関の医師で構成する岐阜市救急業務対策協議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催とした。

□救急業務体験研修について

救急医療の重要性を認識し、救急業務の理解を深めた人材の育成を図ることを目的に、岐阜大学医学部、岐阜県総合医療センター及び岐阜市民病院と協定を締結し、医学生、研修医及び看護師を対象とした救急業務体験研修を実施している。

このように、医療関係者を研修生として受入れることで、消防機関と医療機関の連携が今まで以上に強化され、救急医療の一層の充実が図られている。

□乗用車型ドクターカーの運用状況について

平成30年4月1日から、岐阜大学医学部附属病院の事業に協力して、消防本部管内で発生した重症事案に対し、消防本部に待機した医師・看護師が、消防職員の運転する乗用車型ドクターカーで、救急現場に出場している。

出場した医師・看護師が必要に応じ救急現場等から治療を開始し、医療機関へ搬送途上の救急車内で治療を継続することで、重症傷病者の救命率の向上及び後遺症の軽減が期待される。

ドクターカーの出場件数は622件、医師が救急車に同乗し医療機関へ搬送した人員は258人であった。

□救急安心センターぎふ#7119の運用開始について

令和3年10月1日から救急安心センターぎふ#7119の運用を開始している。この事業は、住民が急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、看護師等の医療従事者から電話でアドバイスを受けることができる。

令和5年中

の岐阜市消防本部管内における相談実績は、救急相談が6,444件、病院案内が3,649件、その他が488件の計10,581件であった。

目 次

第1 救急業務実施体制の現況

救急業務実施体制	1
----------	---

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況	2～4
2 救急隊別出場状況	5
3 事故種別出場件数及び搬送人員	6・7
4 年齢区分別事故種別搬送人員	8
5 月別1日平均及び曜日別出場件数	9
6 時刻別事故種別出場件数	10
7 現場到着所要時間別出場件数	11
8 傷病者の収容所要時間	12
9 診療科目別搬送人員	13
10 傷病程度別搬送人員	14・15
11 急病に係る搬送人員	16・17

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置	18・19
2 ウツタイン様式調査	20

第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員	21
2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員	21
3 転送の状況	22

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況-----23

2 救命講習の受講人員の推移-----24

令和5年救急業務の年表-----25～28

第1 救急業務実施体制の現況

1 救急業務実施体制

岐阜市消防本部における救急業務は、令和5年12月31日現在、6消防署、15分署で、救急隊数21隊、救急隊員数210人で編成している。

また、高度救急救命体制の核となる救急救命士の資格を有する人数は159人(うち女性5人)、高規格救急車27台を運用し、計画的に救急業務の高度化を推進している。

第1表 救急業務実施体制

◎ 令和5年12月31日現在の救急業務実施体制	
○ 消防署数	21 署 (消防署6、分署15)
○ 管内面積	833.60 km ²
○ 管内人口	534,440 人
○ 救急業務実施署	21 署 (消防署6、分署15)
○ 救急隊数	21 隊
○ 救急隊員数	210 人
○ 救急車保有台数	27 台 (うち6台は非常用救急車)

第2表 救急隊の配備と救急救命士等の養成状況

区分 年	救急隊数	救急隊員数	救急救命士数	救急救命士					救急科 修了者 (250時間)
				採用職員	気管挿管	ビデオ 喉頭鏡	薬剤投与	新処置	
平成12年	11	110	13						220
平成13年	11	110	15						241
平成14年	11	110	18						255
平成15年	11	110	21						269
平成16年	11	110	24		1				274
平成17年	12	120	29	1	6				292
平成18年	13	130	34	1	9		3		270
平成19年	14	140	40	4	14		9		305
平成20年	15	150	49	5	19		18		338
平成21年	15	150	57	9	24		24		382
平成22年	15	150	64	12	29		36		399
平成23年	15	150	67	12	34	0	46		393
平成24年	15	150	67	10	38	1	53		381
平成25年	15	150	71	11	43	3	61		398
平成26年	15	150	75	12	48	6	67		392
平成27年	15	150	81	14	49	7	70	9	392
平成28年	15	150	87	14	56	9	76	20	408
平成29年	15	150	92	14	60	15	84	32	398
平成30年	21	210	137	17	88	28	121	62	486
令和元年	21	210	144	21	91	31	128	78	503
令和2年	21	210	150	24	92	37	133	86	507
令和3年	21	210	156	27	95	40	138	98	501
令和4年	21	210	161	28	98	47	147	109	494
令和5年	21	210	159	29	100	53	152	117	490

採用職員とは、岐阜市消防本部採用時に救急救命士の資格を有する職員

気管挿管は平成16年7月法制化

薬剤投与は平成18年4月法制化

ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管は平成23年8月付加

新処置(血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖投与、CPA前静脈路確保と輸液)は平成26年4月法制化

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況

令和5年中における救急業務の実施状況は、出場件数28,855件、搬送人員26,777人で、前年に比べ出場件数1,064件（3.8%）、搬送人員1,031人（4.0%）増加した。

1日あたり平均79件、18分に1件の割合で救急隊が出場したことになる。

住民の20人に1人が救急隊によって搬送されたことになる。

第3表 救急業務の実施状況

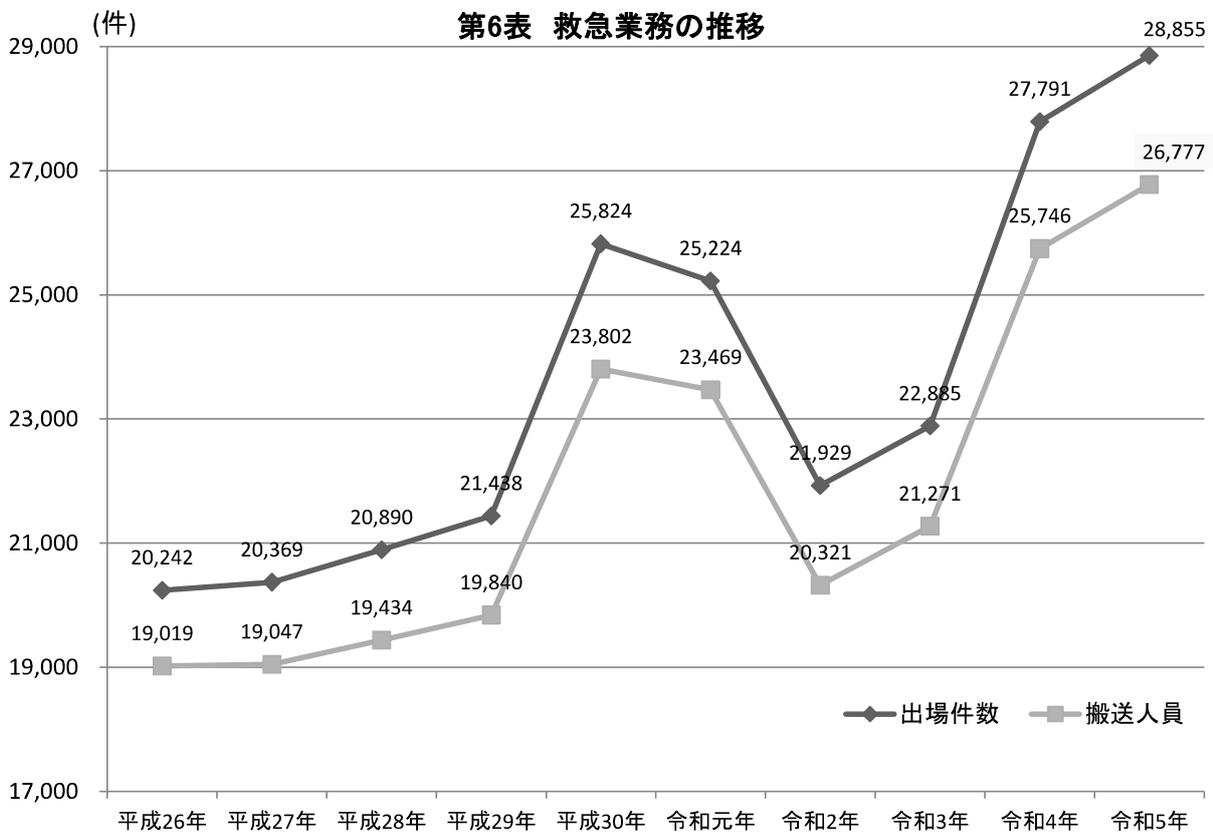
区分	年	令和5年 A	令和4年 B	対前年比	
				増減 A-B=C	増減率 C÷B
出場件数		28,855件	27,791件	1,064件	3.8%
医師搬送出場件数		3件	1件	2件	200.0%
資器材等搬送件数		0件	0件	0件	0.0%
傷病者搬送件数		26,567件	25,507件	1,060件	4.2%
傷病者不搬送件数		2,285件	2,283件	2件	0.1%
傷病者搬送人員		26,777人	25,746人	1,031人	4.0%
内訳	男性	13,588人	13,109人	479人	3.7%
	女性	13,189人	12,637人	552人	4.4%
1日平均出場件数		79件	76件	管内人口 令和5年12月31日現在 534,440人	
救急事故発生率		18分に1件	19分に1件		
救急自動車利用率		20人に1人	21人に1人		
人口1万人当たりの出場件数		540件	519件		

第4表 市・県・国における現況比較

	岐阜市消防本部	岐阜県 (令和4年)	全国 (令和4年)
救急車数（非常用含む）	27台	152台	6,591台
年間出場件数	28,855件	99,260件	7,229,572件
1日平均出場件数	79件	272件	19,807件
救急事故発生率	18分に1件	5.3分に1件	4.4秒に1件
人口比搬送率（救急車利用率）	20人に1人	21人に1人	20人に1人
現場到着平均所要時間	8.0分	9.2分	10.3分
病院収容平均所要時間	33.6分	38.2分	47.2分

第5表 救急業務の推移状況(過去10年)

年	救急出場件数			搬送人員数			人口1万人あたりの 出場数	消防本部 管内人口
	出場 件数	対前 年比	増減率	搬送 人員	対前 年比	増減率		
平成26年	20,242	224	1.1%	19,019	359	1.9%	432	468,763
平成27年	20,369	127	0.6%	19,047	28	0.1%	436	467,690
平成28年	20,890	521	2.6%	19,434	387	2.0%	447	466,919
平成29年	21,438	548	2.6%	19,840	406	2.1%	460	465,966
平成30年	25,824	4,386	20.5%	23,802	3,962	20.0%	474	544,977
令和元年	25,224	-600	-2.3%	23,469	-333	-1.4%	464	543,607
令和2年	21,929	-3,295	-13.1%	20,321	-3,148	-13.4%	405	541,318
令和3年	22,885	956	4.4%	21,271	950	4.7%	426	537,626
令和4年	27,791	4,906	21.4%	25,746	4,475	21.0%	519	535,700
令和5年	28,855	1,064	3.8%	26,777	1,031	4.0%	540	534,440



第7表 救急活動状況(事故別行政区域別)

事故種別	行政区域	合計			岐阜市			瑞穂市			山県市			本巣市			北方町			管轄外		
		5年	4年	増減	5年	4年	増減	5年	4年	増減	5年	4年	増減	5年	4年	増減	5年	4年	増減	5年	4年	増減
合計	出場件数	28,865	27,791	1,064	22,782	21,775	1,007	2,231	2,167	64	1,279	1,303	-24	1,677	1,732	-55	872	806	66	14	8	6
	搬送件数	26,567	25,507	1,060	20,932	19,963	969	2,074	1,975	99	1,187	1,214	-27	1,546	1,600	-54	819	748	71	9	7	2
	搬送人員	26,777	25,746	1,031	21,070	20,122	948	2,103	2,000	103	1,198	1,223	-25	1,574	1,633	-59	823	760	63	9	8	1
火災	出場件数	95	114	-19	70	82	-12	7	7	0	7	14	-7	9	8	1	2	3	-1	0	0	0
	搬送件数	24	22	2	21	20	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	27	31	-4	24	29	-5	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
自然災害	出場件数	2	4	-2	1	4	-3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	搬送件数	1	2	-1	0	2	-2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	1	2	-1	0	2	-2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
水難事故	出場件数	29	18	11	20	15	5	2	0	2	2	0	2	4	2	2	0	0	0	1	1	0
	搬送件数	11	5	6	7	5	2	1	0	1	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	12	5	7	8	5	3	1	0	1	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0
交通事故	出場件数	2,124	2,047	77	1,583	1,559	24	216	184	32	81	66	15	168	165	3	69	70	-1	7	3	4
	搬送件数	1,925	1,856	69	1,437	1,420	17	195	160	35	70	63	7	153	143	10	65	67	-2	5	3	2
	搬送人員	2,090	2,030	60	1,543	1,532	11	215	178	37	79	71	8	180	166	14	68	79	-11	5	4	1
労働災害	出場件数	302	270	32	197	179	18	21	27	-6	37	23	14	31	29	2	15	11	4	1	1	0
	搬送件数	292	266	26	189	178	11	21	25	-4	37	23	14	29	29	0	15	10	5	1	1	0
	搬送人員	292	266	26	189	178	11	21	25	-4	38	23	15	28	29	-1	15	10	5	1	1	0
運動競技	出場件数	230	185	45	192	142	50	14	14	0	6	11	-5	13	11	2	5	7	-2	0	0	0
	搬送件数	226	185	41	189	142	47	13	14	-1	6	11	-5	13	11	2	5	7	-2	0	0	0
	搬送人員	228	188	40	191	145	46	13	14	-1	6	11	-5	13	11	2	5	7	-2	0	0	0
一般負傷	出場件数	4,862	4,636	226	3,841	3,612	229	349	335	14	240	250	-10	280	302	-22	151	137	14	1	0	1
	搬送件数	4,586	4,398	188	3,618	3,423	195	337	330	7	228	235	-7	260	285	-25	143	125	18	0	0	0
	搬送人員	4,601	4,413	188	3,626	3,432	194	341	330	11	229	236	-7	261	290	-29	144	125	19	0	0	0
加害	出場件数	77	75	2	63	59	4	4	8	-4	2	0	2	5	4	1	3	4	-1	0	0	0
	搬送件数	59	58	1	48	47	1	4	5	-1	2	0	2	3	2	1	2	4	-2	0	0	0
	搬送人員	60	58	2	49	47	2	4	5	-1	2	0	2	3	2	1	2	4	-2	0	0	0
自損行為	出場件数	233	230	3	180	173	7	19	25	-6	9	7	2	15	14	1	10	11	-1	0	0	0
	搬送件数	162	165	-3	123	124	-1	14	16	-2	8	6	2	8	10	-2	9	9	0	0	0	0
	搬送人員	162	165	-3	123	124	-1	14	16	-2	8	6	2	8	10	-2	9	9	0	0	0	0
急病	出場件数	18,513	17,878	635	14,552	13,922	630	1,497	1,454	43	805	849	-44	1,095	1,139	-44	561	511	50	3	3	0
	搬送件数	17,242	16,566	676	13,493	12,831	662	1,412	1,359	53	760	810	-50	1,039	1,079	-40	535	484	51	3	3	0
	搬送人員	17,264	16,602	662	13,510	12,856	654	1,417	1,365	52	759	810	-51	1,040	1,084	-44	535	484	51	3	3	0
転院搬送	出場件数	2,053	1,987	66	1,819	1,774	45	78	64	14	74	66	8	37	41	-4	45	42	3	0	0	0
	搬送件数	2,039	1,981	58	1,807	1,769	38	76	64	12	74	65	9	37	41	-4	45	42	3	0	0	0
	搬送人員	2,040	1,982	58	1,807	1,769	38	76	65	11	75	65	10	37	41	-4	45	42	3	0	0	0
その他	出場件数	335	347	-12	264	254	10	24	49	-25	16	17	-1	19	17	2	11	10	1	1	0	1
	搬送件数	0	3	-3	0	2	-2	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	4	-4	0	3	-3	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 救急隊別出場状況

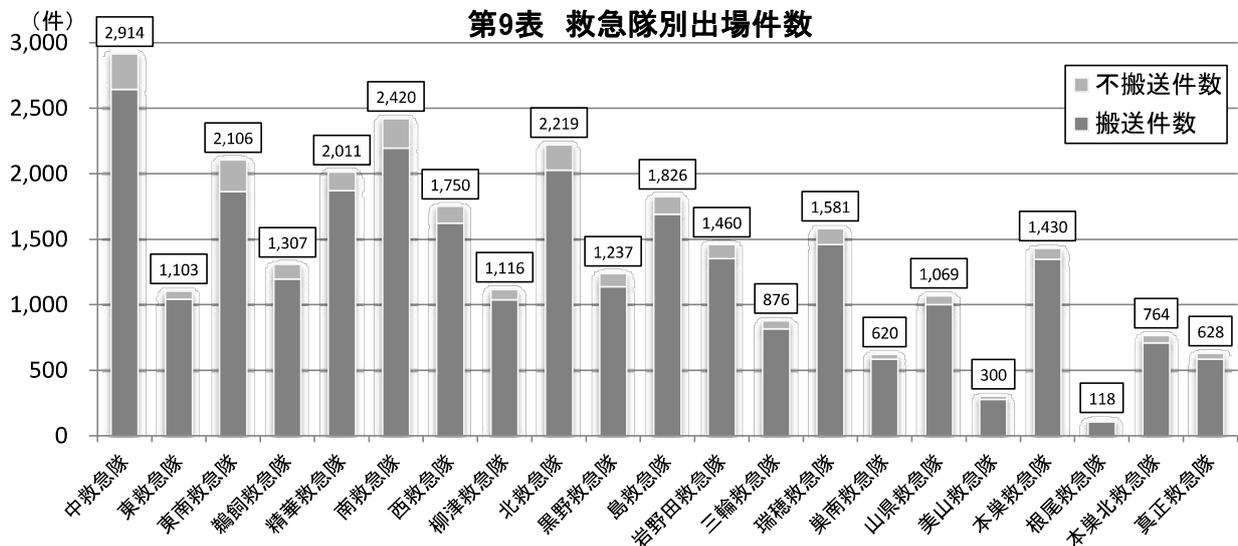
最も多く出場しているのは中救急隊の2,914件（構成比10.1%）で1日平均8.0件、最も少ないのは根尾救急隊の118件（構成比0.4%）で1日平均0.3件となっている。救急救命士搭乗件数は、28,855件で100%搭乗している。

第8表 救急隊別出場状況

出隊隊		区分	出場件数	構成比	前年 出場件数	増 減	1ヶ月 平均	1日平均	搬送人員	不搬送 件数
中消防署	中救急隊		2,914 (0)	10.1%	2,966	-52	242.8	8.0	2,660	270
	東救急隊		1,103 (0)	3.8%	1,037	66	91.9	3.0	1,050	61
	東南救急隊		2,106 (0)	7.3%	2,040	66	175.5	5.8	1,880	241
	鵜飼救急隊		1,307 (0)	4.5%	1,187	120	108.9	3.6	1,202	111
	精華救急隊		2,011 (0)	7.0%	1,930	81	167.6	5.5	1,884	138
南消防署	南救急隊		2,420 (0)	8.4%	2,317	103	201.7	6.6	2,219	223
	西救急隊		1,750 (0)	6.1%	1,690	60	145.8	4.8	1,637	127
	柳津救急隊		1,116 (0)	3.9%	1,024	92	93.0	3.1	1,048	78
北消防署	北救急隊		2,219 (0)	7.7%	2,083	136	184.9	6.1	2,040	190
	黒野救急隊		1,237 (0)	4.3%	1,170	67	103.1	3.4	1,139	100
	島救急隊		1,826 (0)	6.3%	1,695	131	152.2	5.0	1,701	136
	岩野田救急隊		1,460 (0)	5.1%	1,515	-55	121.7	4.0	1,355	107
	三輪救急隊		876 (0)	3.0%	798	78	73.0	2.4	821	60
瑞穂	瑞穂救急隊		1,581 (0)	5.5%	1,481	100	131.8	4.3	1,476	121
	巢南救急隊		620 (0)	2.1%	680	-60	51.7	1.7	597	37
山県	山県救急隊		1,069 (0)	3.7%	1,036	33	89.1	2.9	1,009	69
	美山救急隊		300 (0)	1.0%	309	-9	25.0	0.8	279	22
本巢署	本巢救急隊		1,430 (0)	5.0%	1,397	33	119.2	3.9	1,363	82
	根尾救急隊		118 (0)	0.4%	100	18	9.8	0.3	109	10
	本巢北救急隊		764 (0)	2.6%	748	16	63.7	2.1	712	56
	真正救急隊		628 (0)	2.2%	588	40	52.3	1.7	596	46
全体			28,855 (0)	100.0%	27,791	1064	2,404.6	79.1	26,777	2,285

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

出場件数の（ ）内は、救急救命士非搭乗件数



3 事故種別出場件数及び搬送人員

救急出場件数及び搬送人員を事故種別でみると、急病、一般負傷、交通事故の順となっている。急病、一般負傷、交通事故の救急出場件数は全体の88.4%と大半を占めている。

第10表 事故種別出場件数及び搬送人員

事故種別	年	令和5年		令和4年		対前年比	
		出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病		18,513	64.2%	17,878	64.3%	635	3.6%
		17,264	64.5%	16,602	64.5%	662	4.0%
交通事故		2,124	7.4%	2,047	7.4%	77	3.8%
		2,090	7.8%	2,030	7.9%	60	3.0%
一般負傷		4,862	16.8%	4,636	16.7%	226	4.9%
		4,601	17.2%	4,413	17.1%	188	4.3%
加害		77	0.3%	75	0.3%	2	2.7%
		60	0.2%	58	0.2%	2	3.4%
労働災害		302	1.0%	270	1.0%	32	11.9%
		292	1.1%	266	1.0%	26	9.8%
自損行為		233	0.8%	230	0.8%	3	1.3%
		162	0.6%	165	0.6%	-3	-1.8%
運動競技		230	0.8%	185	0.7%	45	24.3%
		228	0.9%	188	0.7%	40	21.3%
火災		95	0.3%	114	0.4%	-19	-16.7%
		27	0.1%	31	0.1%	-4	-12.9%
水難		29	0.1%	18	0.1%	11	61.1%
		12	0.0%	5	0.0%	7	140.0%
自然災害		2	0.0%	4	0.0%	-2	-50.0%
		1	0.0%	2	0.0%	-1	-50.0%
その他	転院搬送	2,053	7.1%	1,987	7.1%	66	3.3%
		2,040	7.6%	1,982	7.7%	58	2.9%
	その他	335	1.2%	347	1.2%	-12	-3.5%
		0	0.0%	4	0.0%	-4	-100.0%
計		28,855	100.0%	27,791	100.0%	1,064	3.8%
		26,777	100.0%	25,746	100.0%	1,031	4.0%

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第11表 事故種別搬送人員の推移

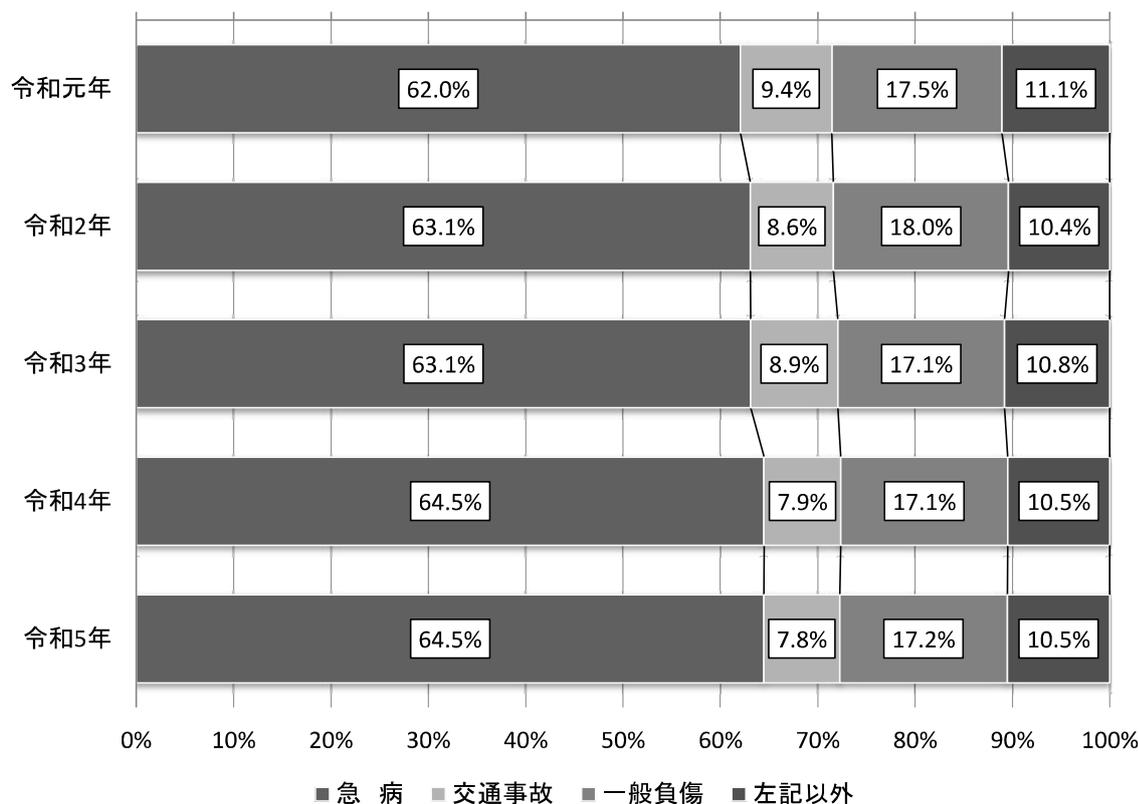
事故種別搬送人員構成比で見ると、交通事故の占める割合は減少し、一般負傷は増加している。

年	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
令和元年	14,561 (62.0)	2,209 (9.4)	4,099 (17.5)	2,600 (11.1)	23,469 (100.0)
令和2年	12,817 (63.1)	1,739 (8.6)	3,654 (18.0)	2,111 (10.4)	20,321 (100.0)
令和3年	13,423 (63.1)	1,903 (8.9)	3,643 (17.1)	2,302 (10.8)	21,271 (100.0)
令和4年	16,602 (64.5)	2,030 (7.9)	4,413 (17.1)	2,701 (10.5)	25,746 (100.0)
令和5年	17,264 (64.5)	2,090 (7.8)	4,601 (17.2)	2,822 (10.5)	26,777 (100.0)

注) ()内は、年別構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第12表 事故種別搬送人員構成比の推移



4 年齢区分別事故種別搬送人員

全搬送人員に対する年齢区分別の搬送人員をみると、高齢者16,746人、成人7,721人の両者で全体の91.3%を占めている。年齢区分別事故種別構成比で見ると、急病では高齢者64.3%、成人27.6%が高く、交通事故では成人が56.7%を占めている。

第13表 年齢区分別事故種別搬送人員

年齢区分 \ 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
新生児	11 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.1)	15 (0.1)
乳幼児	905 (5.2)	45 (2.2)	239 (5.2)	37 (1.3)	1,226 (4.6)
少年	485 (2.8)	229 (11.0)	173 (3.8)	182 (6.4)	1,069 (4.0)
成人	4,764 (27.6)	1,185 (56.7)	727 (15.8)	1,045 (37.0)	7,721 (28.8)
高齢者	11,099 (64.3)	631 (30.2)	3,461 (75.2)	1,555 (55.1)	16,746 (62.5)
65歳から74歳	2,361 (13.7)	255 (12.2)	584 (12.7)	373 (13.2)	3,573 (13.3)
75歳から84歳	4,486 (26.0)	266 (12.7)	1,311 (28.5)	646 (22.9)	6,709 (25.1)
85歳以上	4,252 (24.6)	110 (5.3)	1,566 (34.0)	536 (19.0)	6,464 (24.1)
計	17,264 (100.0)	2,090 (100.0)	4,601 (100.0)	2,822 (100.0)	26,777 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・年齢区分の定義 (以下同じ)

新生児：生後28日未満の者

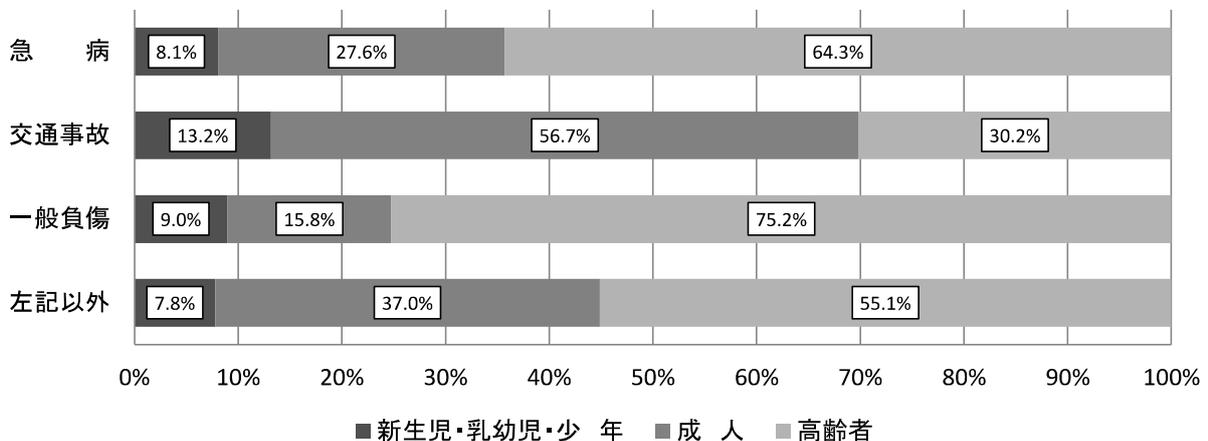
成人：満18歳以上満65歳未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

第14表 年齢区分別搬送人員割合



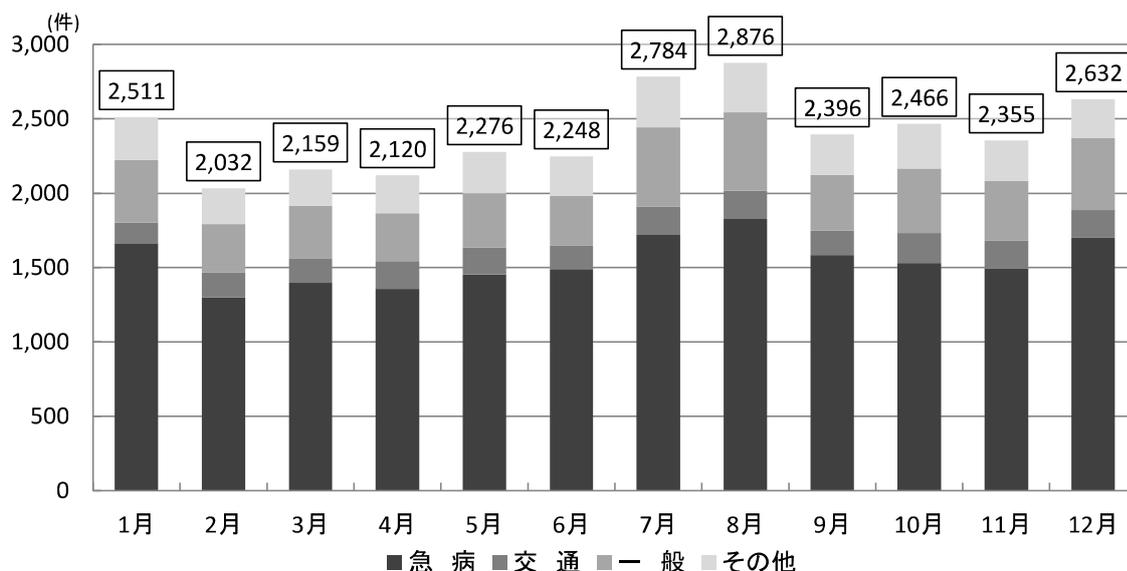
5 月別1日平均及び曜日別出場件数

月別1日平均救急出場件数は、8月の93件が最も多く、3月が70件と最も少ない月となっている。曜日別の救急出場件数をみると、1日平均救急出場件数は月曜日の82件が最も多くなっている。

第15表 月別1日平均出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	1,662	1,300	1,397	1,356	1,453	1,490	1,720	1,826	1,585	1,531	1,494	1,699	18,513
交通	141	168	165	188	182	157	189	192	163	202	190	187	2,124
一般	420	325	354	321	363	334	533	525	374	433	397	483	4,862
上記以外	288	239	243	255	278	267	342	333	274	300	274	263	3,356
計	2,511	2,032	2,159	2,120	2,276	2,248	2,784	2,876	2,396	2,466	2,355	2,632	28,855
1日平均	81	73	70	71	73	75	90	93	80	80	79	85	79

第16表 月別出場件数



第17表 曜日別出場件数

種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計	一日平均 出場件数
月	2,726	310	691	543	4,270	82
曜	2,531	306	660	510	4,007	77
日	2,595	300	686	524	4,105	79
木	2,607	302	638	479	4,026	77
金	2,664	301	687	547	4,199	81
土	2,605	316	701	417	4,039	78
日	2,785	289	799	336	4,209	79
計	18,513	2,124	4,862	3,356	28,855	79

6 時刻別事故種別出場件数

救急出場件数を入電時刻別で見ると、10時台の1,907件が最も多く、3時台が465件と最も少なくなっている。

第18表 時刻別事故種別出場件数

時刻 \ 種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
0時	486	18	95	52	651
1時	414	19	56	45	534
2時	404	15	48	33	500
3時	373	11	60	21	465
4時	359	21	65	29	474
5時	439	23	103	32	597
6時	634	48	121	37	840
7時	778	123	210	38	1,149
8時	981	163	276	100	1,520
9時	1,099	131	342	259	1,831
10時	1,101	145	305	356	1,907
11時	1,028	146	305	355	1,834
12時	1,001	120	302	341	1,764
13時	966	109	302	261	1,638
14時	966	124	303	202	1,595
15時	845	131	298	194	1,468
16時	893	146	273	215	1,527
17時	944	169	280	197	1,590
18時	953	154	246	167	1,520
19時	875	102	239	143	1,359
20時	894	64	208	96	1,262
21時	789	61	171	75	1,096
22時	711	40	133	62	946
23時	580	41	121	46	788
計	18,513	2,124	4,862	3,356	28,855

注) 入電時刻とは通信回線等が消防機関に接続した時刻をいう。

7 現場到着所要時間別出場件数

入電から救急車が現場に到着するまでの所要時間別の出場状況は、10分未満が23,971件で全体の83.1%を占め、平均8.0分で救急車が現場に到着している。

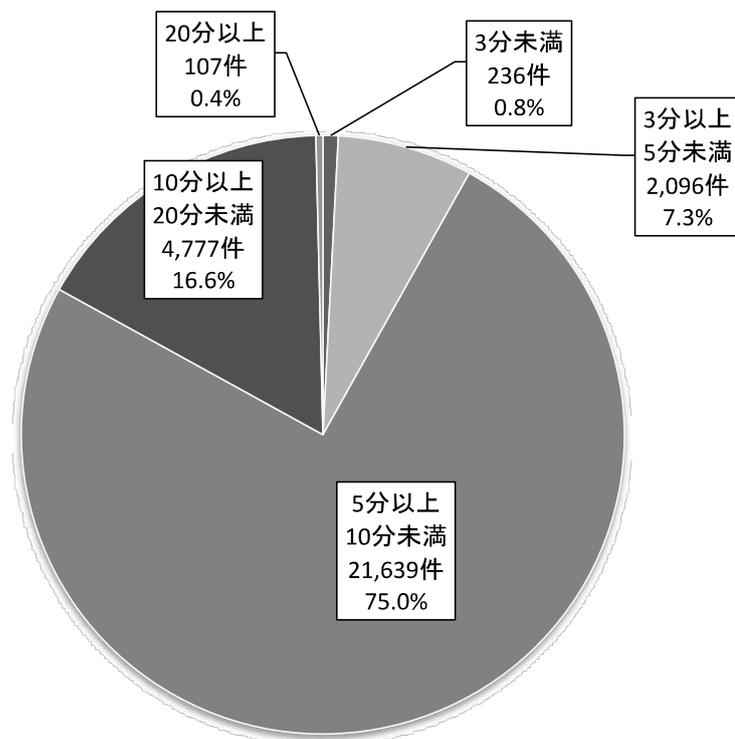
第19表 現場到着所要時間別出場件数

所要時間 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	平均 (分)
急病	138	1,210	14,195	2,930	40	18,513	7.9
	(0.7)	(6.5)	(76.7)	(15.8)	(0.2)	(100.0)	
交通事故	18	117	1,476	499	14	2,124	8.7
	(0.8)	(5.5)	(69.5)	(23.5)	(0.7)	(100.0)	
一般負傷	42	315	3,669	812	24	4,862	8.0
	(0.9)	(6.5)	(75.5)	(16.7)	(0.5)	(100.0)	
上記以外	38	454	2,299	536	29	3,356	7.7
	(1.1)	(13.5)	(68.5)	(16.0)	(0.9)	(100.0)	
計	236	2,096	21,639	4,777	107	28,855	8.0
	(0.8)	(7.3)	(75.0)	(16.6)	(0.4)	(100.0)	

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第20表 現場到着所要時間と出場件数



8 傷病者の收容所要時間

傷病者を入電から收容先医療機関の医師に引き継ぐまでに要した時間は、最も多いのが30分以上60分未満の15,902人で全体の59.4%を占め、平均33.6分で医療機関に收容している。

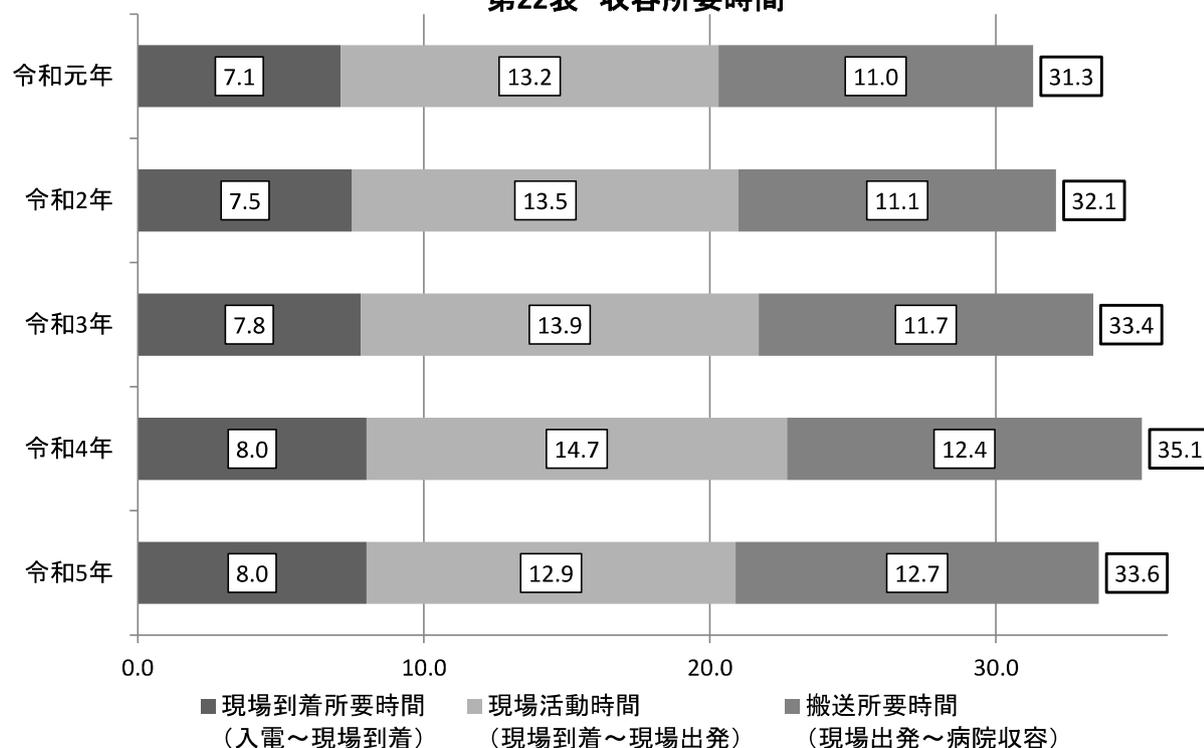
第21表 收容所要時間別事故種別搬送人員

事故種別	所要時間						計	平均 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上		
急病	0 (0.0)	399 (2.3)	5,902 (34.2)	10,625 (61.5)	320 (1.9)	18 (0.1)	17,264 (100.0)	33.9
交通事故	0 (0.0)	51 (2.4)	665 (31.8)	1,329 (63.6)	44 (2.1)	1 (0.0)	2,090 (100.0)	34.5
一般負傷	0 (0.0)	98 (2.1)	1,670 (36.3)	2,729 (59.3)	101 (2.2)	3 (0.1)	4,601 (100.0)	33.9
上記以外	0 (0.0)	168 (6.0)	1,375 (48.7)	1,219 (43.2)	59 (2.1)	1 (0.0)	2,822 (100.0)	30.7
計	0 (0.0)	716 (2.7)	9,612 (35.9)	15,902 (59.4)	524 (2.0)	23 (0.1)	26,777 (100.0)	33.6

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第22表 收容所要時間



9 診療科目別搬送人員

過去5年間の診療科目別搬送人員の推移を表している。令和5年は内科、外科で全体の63%を占めている。

第23表 診療科目/搬送人員別の推移

診療科目 \ 年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
合 計	23,469 (100.0)	20,321 (100.0)	21,271 (100.0)	25,746 (100.0)	26,777 (100.0)
外 科	4,568 (19.5)	3,693 (18.2)	4,076 (19.2)	4,631 (18.0)	4,785 (17.9)
内 科	10,486 (44.7)	8,938 (44.0)	9,237 (43.4)	11,958 (46.4)	12,076 (45.1)
脳神経外科	1,553 (6.6)	1,539 (7.6)	1,482 (7.0)	1,604 (6.2)	1,683 (6.3)
小児科	1,103 (4.7)	614 (3.0)	687 (3.2)	1,079 (4.2)	1,403 (5.2)
産婦人科	285 (1.2)	192 (0.9)	258 (1.2)	233 (0.9)	252 (0.9)
耳鼻咽喉科	347 (1.5)	315 (1.6)	327 (1.5)	316 (1.2)	391 (1.5)
整形外科	2,487 (10.6)	2,445 (12.0)	2,329 (10.9)	2,680 (10.4)	2,754 (10.3)
泌尿器科	264 (1.1)	267 (1.3)	285 (1.3)	306 (1.2)	297 (1.1)
精神科	171 (0.7)	122 (0.6)	139 (0.7)	171 (0.7)	159 (0.6)
眼 科	19 (0.1)	22 (0.1)	29 (0.1)	31 (0.1)	41 (0.2)
循環器科	1,061 (4.5)	1,009 (5.0)	1,101 (5.2)	1,296 (5.0)	1,464 (5.5)
呼吸器科	403 (1.7)	403 (2.0)	519 (2.4)	601 (2.3)	551 (2.1)
上記以外	722 (3.1)	762 (3.7)	802 (3.8)	840 (3.3)	921 (3.4)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

10 傷病程度別搬送人員

傷病程度別・事故種別及び年齢区分別・傷病程度別搬送人員の状況を表している。

第24表 傷病程度別・事故種別搬送人員

種別 \ 程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	106 (0.6)	1,794 (10.4)	8,750 (50.7)	6,614 (38.3)	0 (0.0)	17,264 (100.0)
交通事故	1 (0.0)	69 (3.3)	525 (25.1)	1,495 (71.5)	0 (0.0)	2,090 (100.0)
一般負傷	15 (0.3)	317 (6.9)	1,932 (42.0)	2,337 (50.8)	0 (0.0)	4,601 (100.0)
上記以外	12 (0.4)	619 (21.9)	1,599 (56.7)	592 (21.0)	0 (0.0)	2,822 (100.0)
計	134 (0.5)	2,799 (10.5)	12,806 (47.8)	11,038 (41.2)	0 (0.0)	26,777 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

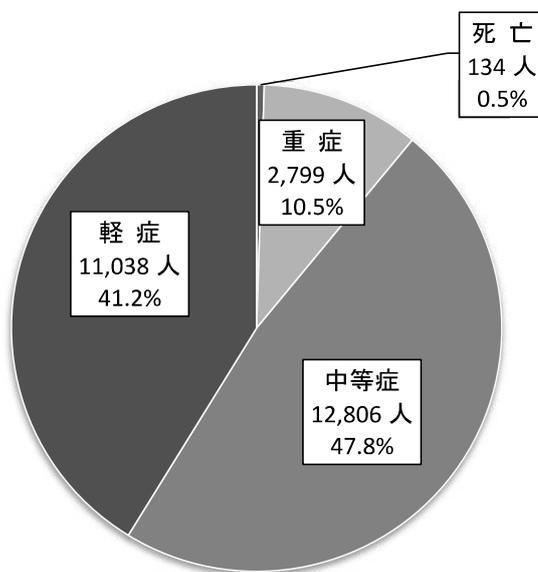
中等症(入院診療) : 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症(外来診療) : 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

第25表 傷病程度別搬送人員



第26表 年齢区分別傷病程度別搬送人員

区分 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児	0 (0.0)	1 (6.7)	5 (33.3)	9 (60.0)	0 (0.0)	15 (100.0)
乳幼児	0 (0.0)	25 (2.0)	394 (32.1)	807 (65.8)	0 (0.0)	1,226 (100.0)
少 年	0 (0.0)	24 (2.2)	348 (32.6)	697 (65.2)	0 (0.0)	1,069 (100.0)
成 人	15 (0.2)	514 (6.7)	2,974 (38.5)	4,218 (54.6)	0 (0.0)	7,721 (100.0)
高齢者	119 (0.7)	2,235 (13.3)	9,085 (54.3)	5,307 (31.7)	0 (0.0)	16,746 (100.0)
65歳から74歳	18 (0.5)	412 (11.5)	1,810 (50.7)	1,333 (37.3)	0 (0.0)	3,573 (100.0)
75歳から84歳	42 (0.6)	859 (12.8)	3,543 (52.8)	2,265 (33.8)	0 (0.0)	6,709 (100.0)
85歳以上	59 (0.9)	964 (14.9)	3,732 (57.7)	1,709 (26.4)	0 (0.0)	6,464 (100.0)
計	134 (0.5)	2,799 (10.5)	12,806 (47.8)	11,038 (41.2)	0 (0.0)	26,777 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第27表 事故種別軽症者の推移

事故種別 \ 年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
軽症者数	9,722 (100.0)	7,747 (100.0)	8,213 (100.0)	10,478 (100.0)	11,038 (100.0)
急 病	5,500 (56.6)	4,433 (57.2)	4,710 (57.3)	6,280 (59.9)	6,614 (59.9)
交通事故	1,630 (16.8)	1,191 (15.4)	1,308 (15.9)	1,465 (14.0)	1,495 (13.5)
一般負傷	2,125 (21.9)	1,776 (22.9)	1,814 (22.1)	2,239 (21.4)	2,337 (21.2)
上記以外	467 (4.8)	347 (4.5)	381 (4.6)	494 (4.7)	592 (5.4)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

11 急病に係る搬送人員

急病の搬送人員は17,264人となっている。疾病分類では循環系の疾患が多く、脳疾患と心疾患等とで合わせて2,308人が搬送され、急病全体の搬送人員のうち13.4%を占めている。

特に高齢者は循環系、呼吸系の疾患が占める割合が高い。

傷病程度別で見ると軽症の割合は、全体で38.3%を占めている。

年齢区分別にみると高齢者の割合が高く、全体の64.3%を占めている。

第28表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

分類項目		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患	0 (0.0)	1 (0.1)	4 (0.8)	177 (3.7)	816 (7.4)	998 (5.8)
	心疾患等	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (1.4)	240 (5.0)	1,063 (9.6)	1,310 (7.6)
消化系		0 (0.0)	34 (3.8)	32 (6.6)	434 (9.1)	722 (6.5)	1,222 (7.1)
呼吸系		1 (9.1)	46 (5.1)	48 (9.9)	344 (7.2)	1,030 (9.3)	1,469 (8.5)
精神系		0 (0.0)	1 (0.1)	7 (1.4)	405 (8.5)	78 (0.7)	491 (2.8)
感覚系		0 (0.0)	26 (2.9)	46 (9.5)	155 (3.3)	141 (1.3)	368 (2.1)
泌尿系		0 (0.0)	1 (0.1)	5 (1.0)	222 (4.7)	217 (2.0)	445 (2.6)
新生物		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	30 (0.6)	135 (1.2)	165 (1.0)
その他		3 (27.3)	23 (2.5)	21 (4.3)	443 (9.3)	1,012 (9.1)	1,502 (8.7)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		7 (63.6)	773 (85.4)	315 (64.9)	2,314 (48.6)	5,885 (53.0)	9,294 (53.8)
計		11 (100.0)	905 (100.0)	485 (100.0)	4,764 (100.0)	11,099 (100.0)	17,264 (100.0)

注) 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO（世界保健機関）で定める国際疾病分類（ICD）により分類したものである。

注) 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。

注) 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。

注) 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

注) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の傷病名である。

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

注) 急病の搬送人員は、事故種別搬送人員から算出している。

第29表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 分類項目		死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
循環系	脳疾患	1 (0.9)	338 (18.8)	537 (6.1)	122 (1.8)	998 (5.8)
	心疾患等	8 (7.5)	289 (16.1)	689 (7.9)	324 (4.9)	1,310 (7.6)
消化系		0 (0.0)	63 (3.5)	677 (7.7)	482 (7.3)	1,222 (7.1)
呼吸系		0 (0.0)	165 (9.2)	854 (9.8)	450 (6.8)	1,469 (8.5)
精神系		0 (0.0)	13 (0.7)	178 (2.0)	300 (4.5)	491 (2.8)
感覚系		0 (0.0)	7 (0.4)	199 (2.3)	162 (2.4)	368 (2.1)
泌尿系		0 (0.0)	21 (1.2)	198 (2.3)	226 (3.4)	445 (2.6)
新生物		0 (0.0)	54 (3.0)	102 (1.2)	9 (0.1)	165 (1.0)
その他		0 (0.0)	80 (4.5)	770 (8.8)	652 (9.9)	1,502 (8.7)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		97 (91.5)	764 (42.6)	4,546 (52.0)	3,887 (58.8)	9,294 (53.8)
計		106 (100.0)	1,794 (100.0)	8,750 (100.0)	6,614 (100.0)	17,264 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第30表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
新生児	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.0)	8 (0.1)	11 (0.1)
乳幼児	0 (0.0)	17 (0.9)	318 (3.6)	570 (8.6)	905 (5.2)
少年	0 (0.0)	7 (0.4)	193 (2.2)	285 (4.3)	485 (2.8)
成人	8 (7.5)	259 (14.4)	1,939 (22.2)	2,558 (38.7)	4,764 (27.6)
高齢者	98 (92.5)	1,511 (84.2)	6,297 (72.0)	3,193 (48.3)	11,099 (64.3)
計	106 (100.0)	1,794 (100.0)	8,750 (100.0)	6,614 (100.0)	17,264 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置

搬送人員26,777人のうち、応急処置を実施した傷病者は26,770人である。

特定行為等（器具による気道確保、気管内チューブによる気道確保、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、ブドウ糖投与）の件数は1,076件となっている。

第31表 救急隊員の行った応急処置

事故種別 応急処置対象人員	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
処置項目	17,261人	2,089人	4,600人	2,820人	26,770人
止血	80 (0.1)	44 (0.5)	238 (1.3)	56 (0.5)	418 (0.4)
固定	69 (0.1)	696 (7.9)	391 (2.1)	126 (1.1)	1,282 (1.1)
人工呼吸	22 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)	8 (0.1)	33 (0.0)
酸素吸入	3,786 (5.0)	109 (1.2)	290 (1.6)	702 (6.0)	4,887 (4.3)
保温	351 (0.5)	37 (0.4)	79 (0.4)	44 (0.4)	511 (0.4)
被覆	59 (0.1)	295 (3.4)	1,019 (5.5)	156 (1.3)	1,529 (1.3)
心肺蘇生	479 (0.6)	4 (0.0)	65 (0.3)	42 (0.4)	590 (0.5)
胸骨圧迫	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
在宅療法	360 (0.5)	3 (0.0)	40 (0.2)	16 (0.1)	419 (0.4)
血圧測定	16,386 (21.8)	2,051 (23.4)	4,425 (23.8)	2,745 (23.6)	25,607 (22.4)
心音・呼吸音聴取	7,674 (10.2)	995 (11.3)	1,524 (8.2)	912 (7.8)	11,105 (9.7)
血中酸素飽和度測定	16,831 (22.4)	2,083 (23.7)	4,539 (24.4)	2,779 (23.9)	26,232 (23.0)
心電図測定	12,534 (16.7)	593 (6.8)	1,775 (9.6)	1,480 (12.7)	16,382 (14.4)
気道確保	670 (0.9)	11 (0.1)	87 (0.5)	57 (0.5)	825 (0.7)
用手	307	8	48	36	399
経鼻エアウェイ	1	0	0	1	2
喉頭鏡・鉗子等	3	0	6	0	9
ラッシングアルマスク等	356	3	25	20	404
気管内チューブ	3	0	8	0	11
ビデオ喉頭鏡	2	0	4	0	6
除細動	50 (0.1)	0 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.0)	56 (0.0)
静脈路確保	221 (0.3)	12 (0.0)	20 (0.1)	14 (0.1)	267 (0.2)
心肺機能停止前	43	11	8	7	69
心肺機能停止後	162	1	12	7	182
ブドウ糖投与	16	0	0	0	16
薬剤投与	78 (0.1)	0 (0.0)	5 (0.0)	1 (0.0)	84 (0.1)
血糖測定	220 (0.3)	3 (0.0)	9 (0.0)	6 (0.1)	238 (0.2)
ブドウ糖投与	16 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (0.0)
その他	15,246 (20.3)	1,841 (21.0)	4,069 (21.9)	2,472 (21.3)	23,628 (20.7)
計	75,133 (100.0)	8,778 (100.0)	18,580 (100.0)	11,619 (100.0)	114,110 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第32表 救急救命処置実施数の推移

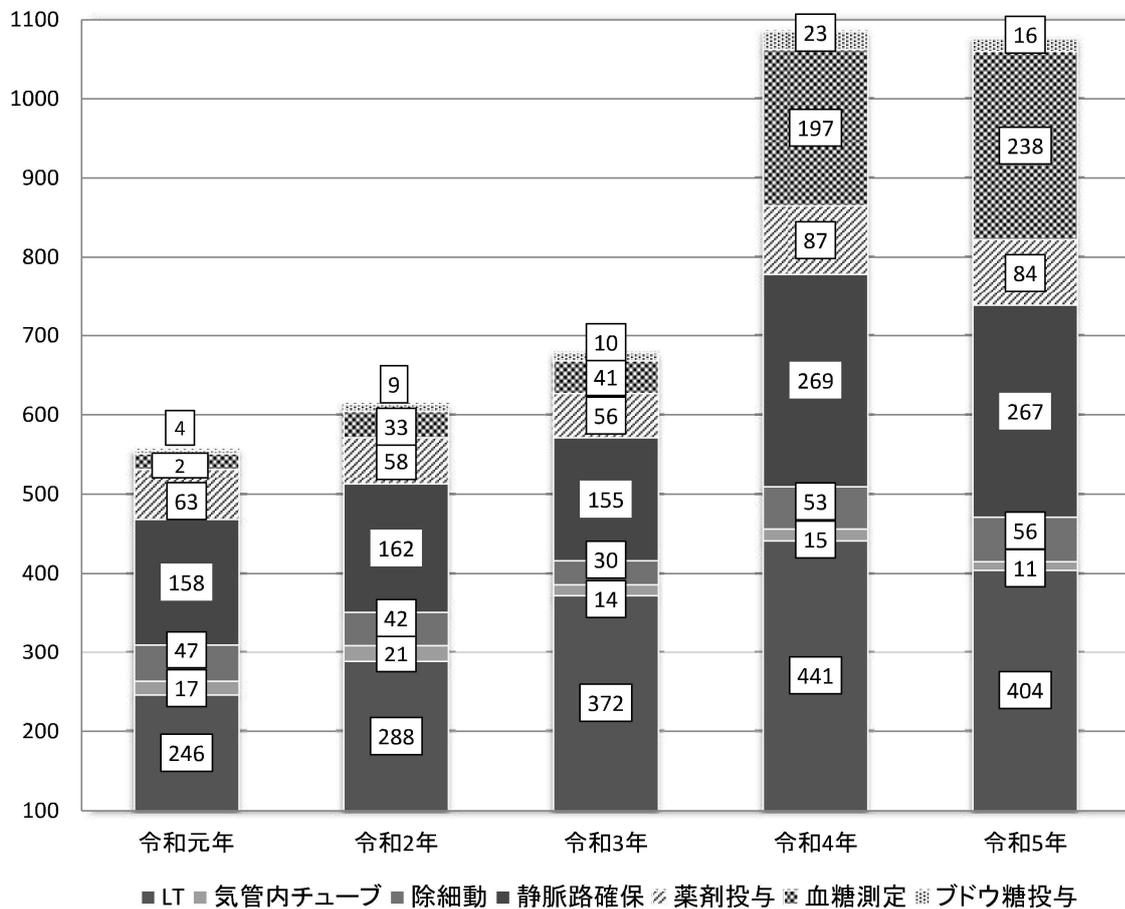
処置内容		LT	気管内チューブ	除細動	静脈路確保	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	合計
処置実績	令和元年	246	17 (3)	47	158 (25)	63	20	4	555
	令和2年	288	21 (6)	42	162 (29)	58	33	9	613
	令和3年	372	14 (8)	30	155 (40)	56	41	10	678
	令和4年	441	15 (9)	53	269 (47)	87	197	23	1,085
	令和5年	404	11 (6)	56	267 (69)	84	238	16	1,076

注) 気管内チューブの () 内はビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管を示す。

注) 処置内容のLTは、ラリングアルチューブを示す。

注) 静脈路確保の () 内はCPA前静脈路確保を示す。

第33表 救急救命処置実施数の推移



- ※ 平成15年4月 除細動 (医師の具体的指示は不要)
- ※ 平成16年8月 除細動 (救急救命士以外の救急隊員も実施可能)
- ※ 平成16年7月 気管内チューブによる気道確保
- ※ 平成18年4月 薬剤投与 (アドレナリン投与)
- ※ 平成23年8月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管
- ※ 平成26年4月 新処置 (血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、CPA前静脈路確保と輸液)

2 ウツタイン様式調査

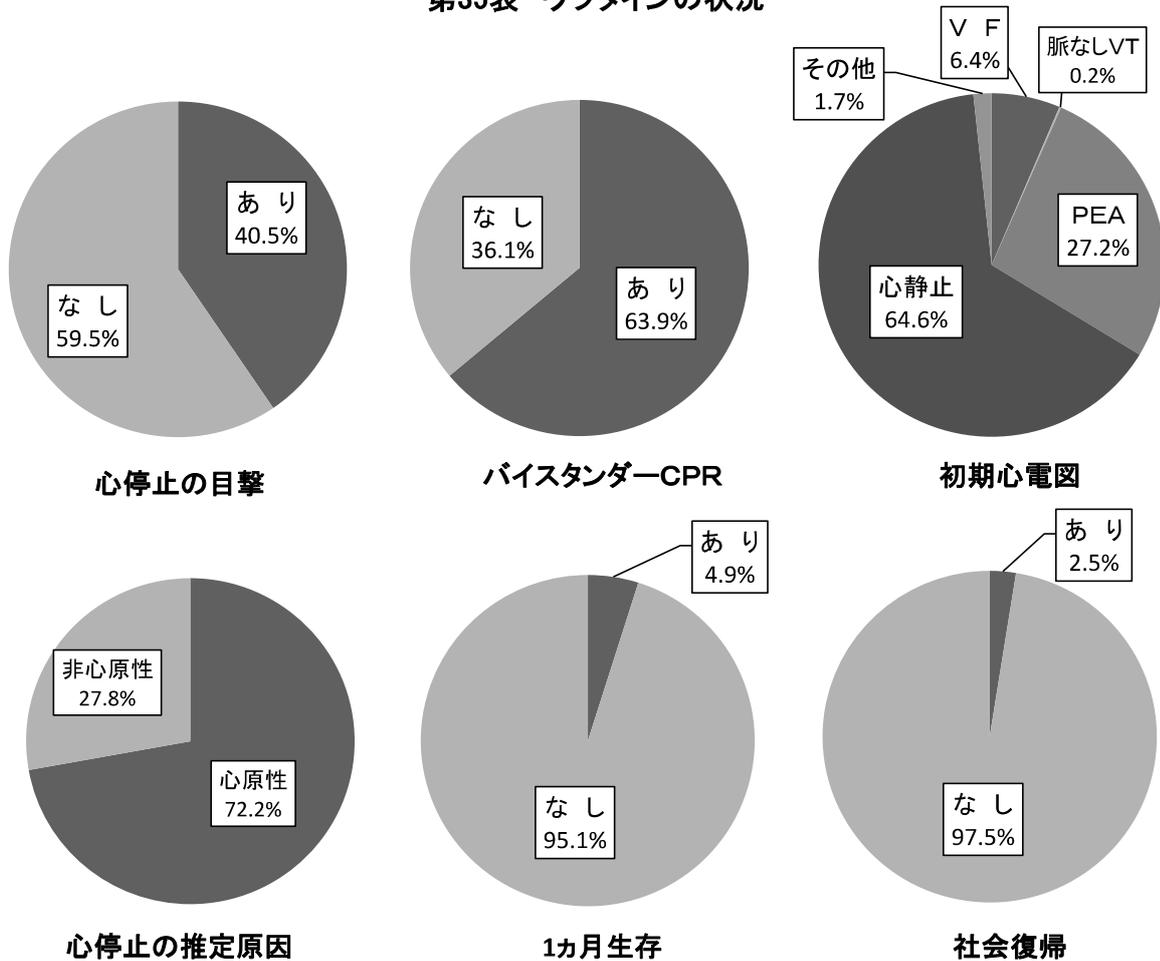
令和5年中において、救急隊が搬送したウツタイン様式調査の対象となる592人のうち、家族や救急隊員による心肺停止の目撃、CPRの有無、傷病者の1ヵ月以内の生存の割合について、救急救命士が対応した場合と一般隊員が対応した場合とに分け比較したものである。

第34表 ウツタイン様式調査

対象人数 593人

		救急救命士隊		その他の隊		合計	
心停止の目撃	あり	240	40.5%	0	0.0%	240	40.5%
	なし	353	59.5%	0	0.0%	353	59.5%
バイスタンダーCPR	あり	379	63.9%	0	0.0%	379	63.9%
	なし	214	36.1%	0	0.0%	214	36.1%
初期心電図	V F	38	6.4%	0	0.0%	38	6.4%
	脈なしVT	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%
	PEA	161	27.2%	0	0.0%	161	27.2%
	心静止	383	64.6%	0	0.0%	383	64.6%
	その他	10	1.7%	0	0.0%	10	1.7%
心停止の推定原因	心原性	428	72.2%	0	0.0%	428	72.2%
	非心原性	165	27.8%	0	0.0%	165	27.8%
1ヵ月生存	あり	29	4.9%	0	0.0%	29	4.9%
	なし	564	95.1%	0	0.0%	564	95.1%
社会復帰	あり	15	2.5%	0	0.0%	15	2.5%
	なし	578	97.5%	0	0.0%	578	97.5%

第35表 ウツタインの状況



第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員

医療機関に搬送した26,777人のうち救急告示医療機関への搬送人員は26,408人（98.6%）で救急告示医療機関以外への搬送人員は、369人（1.4%）である。

第36表 医療機関別搬送人員

区分 告示別	医 療 機 関						構成比	そ の 他 の 場 所			合 計
	国 立	公 立	公 病 院	私 病 院	私 的 診 療 所	計		接 骨 院 等	そ の 他 の 場 所	計	
救急告示	1,431 (1)	10,188 (747)	4,176 (408)	10,591 (1,659)	22 (1)	26,408 (2,816)	98.6%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26,408 (2,816)
非告示	0 (0)	0 (0)	0 (0)	247 (45)	122 (1)	369 (46)		1.4%	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1,431 (1)	10,188 (747)	4,176 (408)	10,838 (1,704)	144 (2)	26,777 (2,862)	100.0%		0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) () 内は管外の医療機関へ搬送された人員である。

2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

管内の医療機関に89.3%搬送されている。

第37表 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

区分 年	搬送人員	搬 送 先 医 療 機 関						管 外 搬送率
		管 内		管 外				
				県 内		県 外		
令和元年	23,469	20,911	89.1%	2,533	10.8%	25	0.1%	10.9%
令和2年	20,321	18,186	89.5%	2,119	10.4%	16	0.1%	10.5%
令和3年	21,271	18,935	89.0%	2,318	10.9%	18	0.1%	11.0%
令和4年	25,746	22,903	89.0%	2,821	11.0%	22	0.1%	11.0%
令和5年	26,777	23,915	89.3%	2,840	10.6%	22	0.1%	10.7%

3 転送の状況

「転送」とは、何らかの理由により、初回の搬送先医療機関で収容できなかったため、さらに当該医療機関等以外の医療機関へ搬送した場合をいう。

令和5年中の搬送人員（26,777人）について、転送回数別搬送人員の状況を表し、転送なしに収容された傷病者は、26,749人（99.9%）であり、残りの28人（0.1%）は表39の理由により転送されている。

第38表 転送回数別搬送人員(事故種別)

事故種別	転送の有無 及び回数	転送なし (A)	転送回数					小計 (B)	計 (C) (A) + (B)	転送率 (B)/(C) ×100
			1回	2回	3回	4回	5回 以上			
急病		17,238	26	0	0	0	0	26	17,264	0.2%
交通事故		2,090	0	0	0	0	0	0	2,090	0.0%
一般負傷		4,599	2	0	0	0	0	2	4,601	0.0%
上記以外		2,822	0	0	0	0	0	0	2,822	0.0%
計		26,749	28	0	0	0	0	28	26,777	0.1%

第39表 事故種別による転送理由

転送となった28件について、初回の医療機関に収容できなかった理由は、専門外と処置困難が多く、全体の71.4%を占めている。

種別 理由	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
ベッド満床	3 (11.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (10.7)
専門外	8 (30.8)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	9 (32.1)
医師不在	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
手術中	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
処置困難	10 (38.5)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	11 (39.3)
理由不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	5 (19.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (17.9)
計	26 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	28 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況

応急手当普及啓発活動については、救命講習等を828回開催し17,096人が受講した。
 普及啓発用資器材の保有状況については、蘇生訓練用人形が成人用84体、小児用42体、乳児用42体、AEDトレーナー84器を保有している。
 岐阜市消防本部では、住民を対象に日曜救命講習及び夜間救命講習を開催している。
 また、公立中学校と希望する私立中学校の生徒を対象に、「命の教育」として短時間救命講習を実施している。
 さらに、平成27年から実施している応急手当普及員講習Ⅰにより、141人の応急手当普及員を認定している。令和5年は、この応急手当普及員により49回の救命講習が実施され、647人が受講した。

第40表 講習別救命講習実施人員

種別 区分	上級 救命講習	普通 救命講習 Ⅰ	普通 救命講習 Ⅱ	普通 救命講習 Ⅲ	ステップアップ 講習	救命入門 コース	救命講習 以外講習	合 計
実施回数	9	179	10	21	167	217	225	828
受講者数	172	1,872	188	184	1,906	3,830	8,944	17,096

第41表 受講対象者別救命講習受講人数

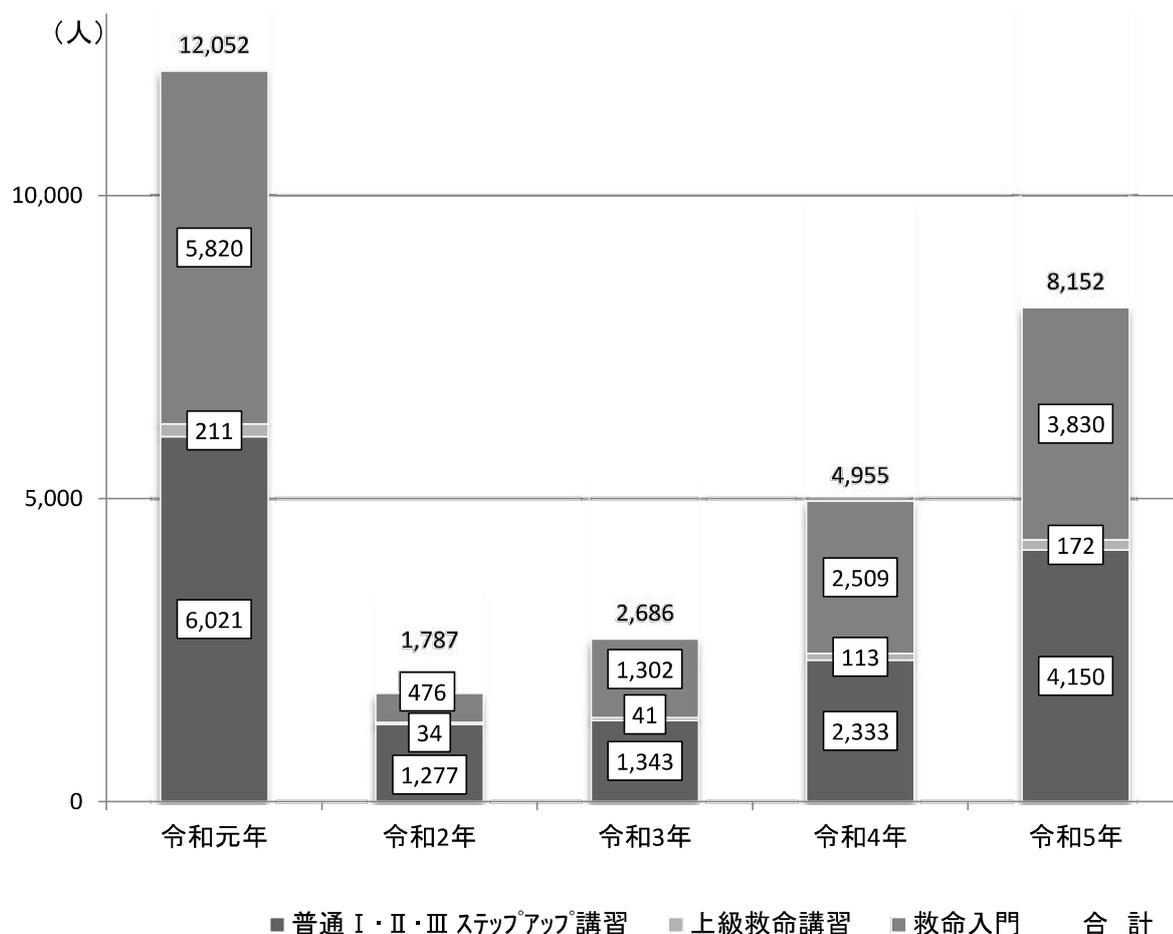
年	団体	事業所	市町職員	自治会等	女性防火	消防団	学校等	日曜救命	夜間救命	その他	合 計
令和元年		4,393	794	2,434	655	656	14,014	470	70	3,017	26,503
令和2年		529	441	72	50	65	1,970	162	16	279	3,584
令和3年		663	252	204	158	14	4,385	167	12	296	6,151
令和4年		1,775	237	479	367	164	8,608	287	37	1,031	12,985
令和5年		3,132	517	809	691	438	5,366	522	58	5,563	17,096

2 救命講習の受講人員の推移

第42表 救命講習の受講人員の推移

種別 年	普通 I・II・III ステップアップ講習 A	上級救命講習 B	小 計 C=A+B	救命入門 コース D	合 計 C+D
令和元年	6,021	211	6,232	5,820	12,052
令和2年	1,277	34	1,311	476	1,787
令和3年	1,343	41	1,384	1,302	2,686
令和4年	2,333	113	2,446	2,509	4,955
令和5年	4,150	172	4,322	3,830	8,152

第43表 救命講習の受講人数



令和5年救急業務の年表

	記 事
1月19日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 野田智昭、仲田総志
1月23日	救急救命士による薬剤投与修了実習 第11回岐阜県救急隊員教育シンポジウム 太田光祐、岡部真歩
1月26日 ～ 1月27日	第31回全国救急隊員シンポジウム 開催場所：広島県広島市
1月30日 ～ 2月27日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 朝日大学病院：高橋弘光 岐阜県総合医療センター：横澤佑太
2月16日	第19回岐阜市救急業務対策協議会（書面会議）
2月16日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 早川裕二
2月18日	救急救命士による薬剤投与修了実習 熊崎丈一郎、馬場良樹
2月18日	市民公開講座（岐阜市医師会主催・岐阜市後援） 開催場所：グランヴェール岐山
2月24日	令和4年度第3回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 臼井康介
3月 3日	令和4年度第2回救急隊員教育部会（オンライン） 救急課長 長崎信隆
3月12日	第46回救急救命士国家試験 小石崇弘、北御門翔、滝川一興、川添誠也、和田恭兵
3月15日	「令和4年度第2回プロトコール検討部会」 救急指導係長 青谷洋人 岐阜県MC協議会「救急隊員教育部会」 救急課長 長崎信隆
3月24日	令和4年度第3回岐阜県MC協議会（オンライン） 救急課長 長崎信隆
4月 5日 ～ 9月29日	第64期救急救命東京研修所派遣 松山稜佑、吉田諒太郎、服部翔太
4月12日 ～ 4月13日	救急係長会議（会場：本巣消防署） 〃
4月23日	第12回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン
4月24日 ～ 4月26日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜市民病院：林剛志 朝日大学病院：渡邊亮
5月 8日 ～ 5月10日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜市民病院：木村太郎 岐北厚生病院：福田兼司
5月 8日	静脈路確保に係る病院実習

	記 事
～ 5月11日	岐阜県総合医療センター：高木唯一
5月15日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 5月17日	朝日大学病院：横澤佑太
5月15日	静脈路確保に係る病院実習
～ 5月19日	岐阜赤十字病院：中島光彦
5月15日	静脈路確保に係る病院実習
～ 5月22日	朝日大学病院：美佐志拓海
5月19日	令和5年度第1回岐阜県消防長会救急課長会議 開催場所：土岐市産業文化振興センター・セラトピア土岐
5月22日	静脈路確保に係る病院実習
～ 5月24日	岐阜市民病院：小酒井勇大 岐阜県総合医療センター：古田章 岐北厚生病院：小林亮太
5月29日	静脈路確保に係る病院実習
～ 5月31日	朝日大学病院：中島大輔
5月29日	静脈路確保に係る病院実習
～ 6月 1日	岐阜赤十字病院：棚橋滉真
5月29日	救急救命士の就業前病院実習
～ 6月30日	岐阜県総合医療センター：北御門翔、和田恭兵 岐阜市民病院：川添誠也、滝川一興 岐北厚生病院：小石崇弘
6月 5日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習
～ 7月 4日	岐阜市民病院：伊藤佑一
6月 5日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習
～ 7月13日	朝日大学病院：杉山清彦
6月 7日	令和5年度第1回岐阜県メディカルコントロール協議会岐阜支部 救急課長 根尾惣磨、岐阜県MC救命士 松葉亮
6月26日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 6月29日	岐阜赤十字病院：谷山貴由
7月 1日	第20回岐阜県救急医療研究会総会・学術集会
7月 3日	令和5年度第1回救急隊員教育部会（オンライン） 救急課長 根尾惣磨
7月 3日	救急救命士の就業前病院実習
～ 8月 4日	朝日大学病院：梶川琢斗 岐阜赤十字病院：平林毅郎
7月 8日	応急手当普及員再講習（計3日間）
7月16日	
7月26日	開催場所：南消防署3階大会議室
7月14日	第19期処置拡大二行為養成講習
7月15日	井川裕也、木村太郎、高木唯一、福田兼司、中島大輔、古田章
7月27日	第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会
～ 7月29日	開催場所：帝京大学板橋キャンパス

	記 事
7月31日 ～ 9月14日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 朝日大学病院：澤田隼人
8月 1日 ～ 8月 3日	患者等搬送乗務員適任者講習(消防本部6階 大会議室) 〃
8月 4日	患者等搬送乗務員定期講習(消防本部6階 大会議室)
8月 8日	令和5年度第1回プロトコール検討部会 救急指導係長 青谷洋人
8月 9日	令和5年度第1回安全管理部会 (オンライン) 救急指導係長 青谷洋人
8月10日	令和5年度第2回救急隊員教育部会 (書面会議) 救急課長 根尾惣磨
8月17日	採用直後に救急救命士資格を取得した職員への救急課教育 梶川琢斗
8月18日	採用直後に救急救命士資格を取得した職員への救急課教育 平林毅郎
8月21日	令和5年度第1回岐阜県MC協議会 救急課長 根尾惣磨
8月23日 ～3月12日	救急救命名古屋研修所派遣 手塚康太
8月31日 ～ 3月11日	第65期救急救命東京研修所派遣 上松大真、高木章弘
9月 4日 ～ 9月 6日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜市民病院：伊藤佑一
9月 9日	応急手当普及員講習 (計3日間)
9月16日	開催場所：南消防署3階大会議室
9月23日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 林剛志
9月20日	救急救命士による薬剤投与修了実習 北御門翔、小石崇弘
10月10日	岐阜ブロック救急担当課長会議 開催場所：各務原市消防本部
10月18日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 渡邊亮
	救急救命士による薬剤投与修了実習 川添誠也
10月27日	令和5年度第3回救急隊員教育部会 救急課長 根尾惣磨
10月30日 ～ 11月27日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：高木唯一
10月31日	令和4年度第1回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 救急指導係長 青谷洋人

	記 事
11月 9日	令和5年度第2回岐阜県MC協議会岐阜支部 救急課長 根尾惣磨、岐阜県MC救命士 松葉亮
11月 9日	令和5年度第1回事後検証部会（オンライン） 救急指導係長 青谷洋人
11月10日	令和5年度第2回岐阜県消防長会救急課長会議 第19回岐阜県救急隊員技術発表会 開催場所：郡上市総合文化センター
11月13日	令和5年度第1回外傷調査に係るワーキンググループ 救急指導係長 青谷洋人
11月15日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 横澤佑太 救急救命士による薬剤投与修了実習 和田恭兵
11月16日	令和5年度テロ災害・多数傷病者対応訓練 開催場所：PLANT6瑞穂店
11月22日	令和5年度第2回岐阜県MC協議会（書面会議） 救急課長 根尾惣磨
11月30日	岐阜赤十字病院新興感染症受入れ対応訓練 開催場所：岐阜赤十字病院
12月 2日	第26回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会 開催場所：三島市民文化会館（ゆうゆうホール）
12月11日	第20回処置拡大二行為養成講習
12月12日	美佐志拓海、棚橋滉真、中島光彦、小林亮太、小酒井勇大
12月16日	令和5年度MCに係る研修会 開催場所：岐阜大学医学部記念会館
12月20日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 谷山貴由 救急救命士による薬剤投与修了実習 滝川一興
12月27日	令和5年度第3回岐阜県MC協議会 救急課長 根尾惣磨